

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 4 月 15 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25883005

研究課題名(和文) 国境を越える性の売買と国際的廃娼運動-日英帝国関係史を中心に

研究課題名(英文) Cross-border Sex Trade and International Movements against Licensed Prostitution:
With a Focus on the Relationship between the Empire of Japan and the British Empire

研究代表者

林 葉子 (Hayashi, Yoko)

大阪大学・文学研究科・助教

研究者番号：60613982

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、帝国日本における買売春の法的規制をめぐる思想がどのように形成されたのかを、イギリス帝国の廃娼運動との関係に着目して調査した。廃娼運動の国際的ネットワークの形成期にあたる19世紀末から1920年代にかけて、救世軍やWWCTUがこのネットワークの形成のために果たした役割を重視して、どのような思想的影響関係があったのかを明らかにした。

日英間で、互いの情報がどのように伝わっていたのかということと、その情報の伝達にWWCTUがどのように関与したのかを、イギリスとアメリカで得た史料からたどり、買売春の法的規制についての日英間の考え方の相違が生じた原因について考察した。

研究成果の概要(英文)：In this study, I researched the formation process of the thought regarding anti-prostitution law in the Empire of Japan, focusing on the influence that the information about British movements against licensed prostitution had on it.

I was able to show how the Salvation Army and the World's Woman's Christian Temperance Union (WWCTU) had an ideological impact and played key roles in creating the international network of movements against licensed prostitution from the late 19th century to the 1920's.

By examining historical archives from the UK and the USA, I tried to trace the way information regarding movements against licensed prostitution was transmitted between the British Empire and Japan, focusing mainly on the role played by the WWCTU on this matter and the subsequent differences that arose on the thought regarding anti-prostitution law.

研究分野：ジェンダー史

キーワード：ジェンダー 廃娼運動 からゆきさん キリスト教 救世軍 公娼制度 買売春 矯風会

1. 研究開始当初の背景

近年のグローバルヒストリーの研究においては、特に日英同盟が重視され、キリスト教の伝道活動の歴史は、グローバルヒストリーの主要な構成要素とみなされている。

廃娼運動はキリスト教伝道と不可分であり、特にイギリスは、西欧諸国が率いる国際的廃娼運動のネットワークにおいて中心的役割を担っており、きわめて重要である。

しかし、そのイギリスと日本の廃娼運動の関係については、先行研究がなかった。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、帝国日本における買売春の法的規制をめぐる思想の形成過程を、イギリス帝国の廃娼運動との関係に着目して、歴史的に検証することを目的とした。

(2) 両帝国関係の原型形成期である 19 世紀末から 1920 年代の国際的廃娼運動の歴史を、世界史的・総体的に把握し、その中に日本の廃娼運動を位置づけることをめざした。

3. 研究の方法

(1) 本研究の基本的な方法は、イギリス(ロンドン)およびアメリカ(ワシントン DC、エヴァンストン)の、以下の図書館・史料館における日本関係の史料の調査と、その史料の分析である。

The Salvation Army International Heritage Centre
London School of Economics and Political Science (LSE) 図書館
The British Library
アメリカ議会図書館
Frances Willard House Archives

具体的には、イギリスの救世軍関連史料、アメリカの World's Woman's Christian Temperance Union (WWCTU)を中心に、廃娼運動関連史料の調査を実施し、あわせて分析、考察した。

(2) また、日本で廃娼運動が 1880 年代以降に広がったことの社会的背景について、イギリスとの比較において考察するために、1870 年代に、婚姻外の性がどのように語られ、表現されていたのかを、イギリスの PUNCH と、その PUNCH を模して日本で発行されていた諷刺雑誌『團圓珍聞』の女性観を比較し、分析した。

4. 研究成果

(1) 本研究では、まず、救世軍が日英両帝国の廃娼運動の人的交流を促進する上で果たした役割の大きさに着目し、イギリスの救世軍本部が日本の買売春の状況をどのようにとらえていたのかということと、日本の救

世軍がイギリスからの働きかけにどのように対応したのかということを明らかにした。

その研究成果は、第 23 回イギリス女性史研究会(2014 年 12 月 13 日)で、「イギリス救世軍機関紙にみる日本人女性の表象 1900 年代の日本の自由廃業運動との関わりに着目して」と題する研究発表の中で公表した。

本発表では、救世軍本部(イギリス・ロンドン)の機関紙である *The War Cry* および、*All the World* における日本についての紹介記事を史料として、1900 年代の日本で救世軍が主導していた自由廃業運動に、イギリスの救世軍本部がどのように関与したのかを検証した。

救世軍は 1865 年にイギリス・ロンドンでウィリアム・ブースによって始められたキリスト教団体であり、軍隊を模した組織と貧民救済活動への積極性を特徴とする。日本に支部がつくられたのは、1895 年である。日本においては、1900 年から、法律家や複数の新聞社と連携しながら日本救世軍が牽引した自由廃業運動(娼妓の廃業と貸座敷からの脱出を支援する社会運動)が、連日、日本の新聞各紙で報じられて、救世軍は、当時の日本人びとに広く知られることになった。自由廃業運動は、遊廓における娼妓や芸妓への虐待を可視化し、日本における買売春の在り方に大きな変化をもたらす強い影響力を持った。

イギリスの廃娼運動家は、西欧諸国を中心とする国際的な廃娼運動の流れを形成する際に中心的な役割を担ったため、日本の廃娼運動史を世界史の中に位置づけるためには、日英の廃娼運動の比較、および、日英の廃娼運動の思想的影響関係を検証することが不可欠である。しかしこれまで、日本の自由廃業運動に、イギリスの救世軍本部がどの程度関与したのかという点については、研究されてこなかった。

本研究発表では、日本の自由廃業運動に与えたイギリスの救世軍本部の影響力の範囲と、自由廃業運動における日本の独自性を明らかにするために、イギリスの救世軍本部の機関紙における日本関係記事に着目した。救世軍本部の機関紙には、イギリス帝国内のみならず、世界各地からの情報が寄せられていたが、日本に関わる記事は、アジア関連記事の中では、比較的多かった。

その日本関連の記事の中でも、本発表では、特に日本人女性の表象に着目した。イギリスの救世軍関係者が、日本人女性、特に娼妓や芸妓をどのような存在として認識し、その認識の仕方が、日本国内における新聞報道や『ときのかさ』(日本救世軍の機関紙)の内容とどのように異なっていたのかを、本発表では具体的に示した。

また、日本の自由廃業運動について、イギリスの救世軍本部が持っていた情報量について推定し、イギリスの救世軍本部が日本の

自由廃業運動に与えた影響の範囲を特定した。また、その日本人の表象を、救世軍機関紙における他のアジア諸国の人びとの表象と比較し、イギリスの救世軍本部が、アジア諸国の中でも、日本を特に重視していたことを明らかにした。

(2) 国際的廃娼運動のリーダーであるイギリスのジョセフィン・バトラーについての情報が、日本にどのように伝わったのかという点についても調査を行った。

研究開始当初は、イギリス帝国における廃娼関連の情報は、イギリスから日本へ直接に流入していたと推定し、イギリス(ロンドン)に残された史料に限定して調査を進めていたが、イギリスの情報が日本に伝わる際の WWCTU の関与の重要性に途中で気づき、研究計画を一部変更して、アメリカにおける WWCTU 関連史料をあわせて調査することにした。

その史料調査と分析の結果は、第 11 回ジェンダー史学会年次大会(2014 年 12 月 14 日)で「廃娼運動の日英米情報ネットワークの形成過程」と題する研究発表を行う中で公表した。

本発表は、明治期の日本にイギリス帝国の廃娼運動についての情報が流入する際に、USA を本拠とする WWCTU がどのように関与したのかを探り、その影響によって、日本の廃娼運動の特徴がどのように形作られたのかを考察するものであった。特に、廃娼運動における法の捉え方の日英間の相違(「純潔」のための新たな法の制定か、法の廃止か)に着目し、国際的廃娼運動を牽引したイギリスのジョセフィン・バトラーらの運動についての情報が、日本に伝わった際の二つの主要なルートについて検証した。

一つ目のルートは、WWCTU の機関紙 *The Union Signal* から矯風会関係者への情報の流入である。二つ目のルートは、The Federation for the Abolition of State Regulation of Vice から廓清会メンバーへの情報の流入である。本発表は、これら二つの流れが合流して、大正初期(1913 年)に矢島楯子著『ジョセフィン・バトラー夫人』が刊行されるにいたったことを示した。

そして、WWCTU や矯風会が日本におけるバトラーの紹介に強く関与したことによって、バトラーと WWCTU のフランシス・ウィラードらの「純潔」をめぐる思想的相違が、日本においては意識化されにくい状況が生じていたことを明らかにした。

(3) 廃娼運動が広く支持を得ながら広がったことの社会的背景として、婚姻外の性について、どのようなイメージが浸透していたかを調べるために、イギリスの *PUNCH* と、その *PUNCH* を模して日本で発行されていた諷刺雑誌『團圓珍聞』の女性観を比較、分析した。

その研究成果は、国際日本学研究会第 8 回学術大会(2014 年 8 月 2 日)で「*PUNCH* と『團圓珍聞』にみる女性像の比較 1870 年代を中心に」と題して発表した。

PUNCH と『團圓珍聞』とでは、婚姻外の性についての表現が大きく異なり、その違いが、イギリスと日本における廃娼論の広がり方の相違に結びついていることを示した。

(4) 上記(1)~(3)の具体的な課題に取り組む中で、これらを総合し、世界史の中に日本の廃娼運動の歴史をどのように位置づけるかということについて考察した。

その考察の結果を、林葉子他『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』(大月書店、2015 年、pp.178-181,198-199,240-241)に示した。

執筆したのは、以下の 4 つの項目である。

「近代公娼制度と廃娼運動」

「「からゆきさん」と植民地公娼制度」

「婦人矯風会とキリスト教」

「売春防止法の成立と性売買の多様化」

「「からゆきさん」と植民地公娼制度」の

項目では、「国際的な婦人児童売買禁止運動(廃娼運動)」の欄を設けて日本との関係について記した。また、「婦人矯風会とキリスト教」の項目では、「世界女性キリスト者禁酒同盟と日本婦人矯風会」の欄を設けて、WWCTU と日本の矯風会の関係について執筆した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 3 件)

林葉子、「廃娼運動の日英米情報ネットワークの形成過程」第 11 回ジェンダー史学会、2014 年 12 月 14 日、横浜国立大学(神奈川県横浜市)

林葉子、「イギリス救世軍機関誌にみる日本人女性の表象 1900 年代日本の自由廃業運動との関わりに着目して」第 23 回イギリス女性史研究会、2014 年 12 月 13 日、甲南大学ネットワークキャンパス東京(東京都千代田区)

林葉子、「*PUNCH* と『團圓珍聞』にみる女性像の比較 1870 年代を中心に」国際日本学研究会第 8 回学術大会、2014 年 8 月 2 日、南山大学宗教文化研究所(愛知県名古屋市)

〔図書〕(計 1 件)

林葉子他、大月書店、『歴史を読み替える ジ

エンダーから見た日本史』、2015、
pp.178-181,198-199,240-241

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）
取得状況（計0件）

6．研究組織

(1)研究代表者

林 葉子 (HAYASHI, Yoko)
大阪大学・大学院文学研究科・助教
研究者番号： 60613982